2002年4月23日第三種郵便認可（毎月3回5の日発行）
2023年7月10日発行　SSKW増刊通巻　5994号

SSKW
巣立ちだより
No.59

精神科医療の姥捨て山

田尾有樹子
巣立ち会理事長

この「巣立ちだより」を読んでくださる方のほとんどは２月にNHK、Eテレで放映された滝山病院の事件をご存じだと思う。あの放送を見て途中で気分が悪くなったという声を複数耳にした。

今から40年ほど前、宇都宮病院事件という不祥事がこの精神医療の世界にあった。病院職員が入院患者を鉄パイプで殴り殺すということが日常起こっていたという、当時でさえ世界を震撼させるものだった。その後、不正請求や無資格者の雇用などあらゆることで信じられないようなことが明らかにされた。当時、私はこの世界に入ってまだ数年しかたっていなかったが、精神病院という閉鎖された空間では何が起こっても闇に葬られるという驚き、そしてこれは氷山の一角なのではないかというこの世界に対する不信感が刻み込まれた。そして、宇都宮病院は今でも存続しているのである。

滝山病院も同じ40年も前からひどい病院だといわれていた。入院したら退院できないという噂は当時からあった。我々精神医療にかかわっている者たちは「ひどい病院」ということを知っていた。「ひどい」の内容までは具体的に知ることはできなかったが。しかし、死亡退院の多さや外来医療のないことから推して測っていたはずである。そしてみんなが目を背けていたのである。かつて巣立ち会を退去してもらった人が滝山病院に転院になったという噂を聞いたことがあった。うちが受け入れができなくなると行先は滝山病院かと思った覚えがある。医療従事者の中にも病院からの転院依頼を滝山病院にかけた経験者は多くいるはずだ。そのことに少しの葛藤を感じながらもより安易な選択をしてきているのである。

この問題が滝山病院だけの問題でないことは我々精神医療にかかわるものは誰もが承知している。閉鎖された空間で、しかも力の上下関係が明らかにある状況で、虐待は容易に起こる。これも誰もが周知のことで、だからこそ、風通しも良く、多くの人の目があり、誰もが不条理なことに対して意見が言えるような環境が重要だと考えている。そして最も大切なのはこの上下関係が成立するような環境を最小限にすることである。精神科病院は明らかに管理する側とされる側が存在する、上下関係が明白な世界である。ここに今、２９万人近い人が日本では入院している。滝山病院ほど明らかな暴力的な行為がすべての病院に存在しているとは思わないが、弱い立場の人間が力で抑えられるということは日常的に起こっている。この問題を解決するためには日本の精神病床をもっと少なく、最小限の入院治療で済ませられるような社会を作っていくしかないのである。

この問題を我々の卑近な問題に置き換えると、少しでも多くの人が地域で生活できる社会を我々の手で作り出していくということに他ならない。巣立ち会がずっとやり続けてきたことである。まだまだ足りていないが我々はこの努力をこれからも粛々と続けていくことを皆さんに約束する。

宇都宮病院事件（1983年）を報じる新聞記事

第１７回　愛のふれあいコンサート

2020年6月に中止せざるを得なくなって以後、開催を見合わせておりました愛のふれあいコンサートを6月16日（金）に実に4年ぶりに、ようやく開催することができました。このコンサートは、日頃から当法人の活動へご理解、ご協力をいただいている皆様への感謝の意を表す場として、また地域のより多くの方々に当法人の福祉活動を知っていただくことを目的に、2004年より開始したものです。

コンサート開演に先立ち、当法人の利用者より、地域でどのように暮らしているのか、そして地域の人に伝えたいことを語っていただきました。終了後のアンケートでは「率直にお話しくださって新鮮でよかった、地域にこういう支援サポート活動があることを始めて知った」との感想もいただきました。

コンサート第1部は、安田正昭氏によるピアノの独奏でした。バッハの「ゴルトベルク変奏曲」の大曲を40分通して演奏され、一気に音楽の世界に引き込まれました。「長大な曲を端正に弾ききられ大変迫力を感じた。久しぶりに素晴らしい演奏を聴き心洗われた」など感動の声が多く寄せられました。

第2部のボーマン・ベアンテ氏による

ボーマン・ベアンテ氏

安田正昭氏

チェロ演奏は、ルリ子氏のピアノ伴奏で息のぴったり合った演奏となりました。また曲目も良く知ったものが多く、演奏が終わるたびに曲の背景などの説明をしてくださり、バラエティに富んだ構成になっていました。「ダイナミックな演奏が素晴らしかった、曲の背景を聞くことにより、より楽しめた」などの感想も多く寄せられました。

壇上での当事者発表

当日は249名の方々にご来場頂きました。4年ぶりの開催ということで、楽しみにしてくださっていた方々も多く、調布市内において定期的な企画として根付いてきているように感じております。コンサート自体は入場無料ですが、会場には巣立ち会事業運営維持へのご協力を目的に寄付金箱を設置させていただきました。寄付金の合計は169,924円にのぼり、皆様のご協力に心より感謝しております。

最後になりましたが、ご支援いただきました皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。　（大竹）

2002年4月23日第三種郵便認可（毎月3回5の日発行）
2023年7月10日発行　SSKW増刊通巻　5994号

講演会「リカバリーとWRAP」増川ねてる氏

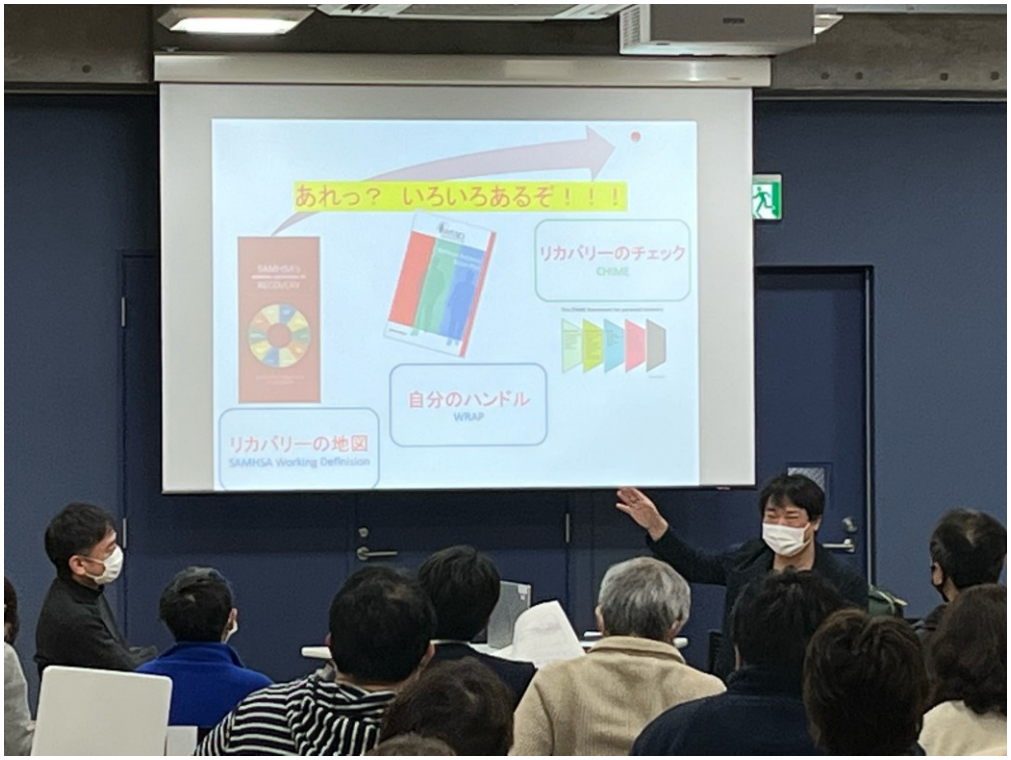
今年の三鷹市ピアサポート事業講演会は、WRAP（元気回復行動プラン）のアドバンスファシリテーター、ピアサポーターとしてご活躍され、2018年に2冊目のご著書も出版された増川ねてる氏にお願いしました。当日参加者はオンライン、会場参加を合わせて160名、大盛況に終わりました。以下に講演会の事前ミーティングから参加された、リカバリーカレッジのピア学習支援員に講演会の感想をいただきました。

「増川ねてるさんってどんな感じの方なんだろう？」と。事前打ち合わせのズームに「こんにちは」と明るく元気な声。自分の経験を順序立ててわかりやすく話して下さる姿にとっても優しさを感じました。

講演会当日、「直前まで寝かせてください」とのこと。むっちゃ楽しい方。寝起きスッキリで、講演会が始まり、会場の皆さんからの質問にも親切丁寧に分かりやすく答えて下さいました。

一番印象に残っているのは、コロナになりWRAPを使っても良くならなくて、リカバリーについての捉え方をもう一度勉強しなおされたというところです。そのお話を聞き、私も今一度手元にあるリカバリーの冊子を読み直しました。何度も読み直した方が良いな、と思いました。増川ねてるさん、またお会いしてお話を聞きたいな、と思いました。

（脇坂）



増川ねてる氏（右）

巣立ち会で３年ぶりにお花見を開催

「そろそろお花見できないかなあ･･･」コロナ禍でずっと我慢をしてきた利用者のみなさんからそんな声が聞かれ、「巣立ち風」、「巣立ち工房」では３月下旬のある日、それぞれ約３年ぶりにお花見が開催されました！

巣立ち会ではミーティングを大切にしているため「どこへ行きたい？」、「何を食べたい？」、「何をしたい？」と、利用者・スタッフみんなで企画を立て、ミーティングを重ねて当日を迎えました。

「巣立ち風」では約70名が参加、公園に広々とシートを広げて、みんなでお弁当やお団子を食べながら、余興の落語や三味線に耳を傾けました。食事の後は全員参加のジャンケンゲームをし、バレーボールやサッカーに興じる方、公園をゆっくりとお散歩をする方など思い思いの時間を過ごしました。

「巣立ち工房」では約20名が参加

「せっかくだからちょっといいものを食べよう！」と、豪華にお寿司とシュークリームを準備、司会進行もメンバーが担当し、電子ピアノの演奏や歌、ゲームやスポーツを楽しみました。

コロナ禍に入職したスタッフも多く、いつもは黙々と静かに作業をされている利用者の方々が、この日ばかりはと笑顔いっぱいで楽しまれ、元気に走り回ったりされている姿に、スタッフの気持ちも温かくなりました。天候にも恵まれ、思い出に残る１日となりました。

（柳館）

2002年4月23日第三種郵便認可（毎月3回5の日発行）
2023年7月10日発行　SSKW増刊通巻　5994号

職員向けのWRAPを開催中

今年度５月３０日から毎週火曜日に巣立ちホームの職員２名がファシリテーターとなり、各所に呼びかけをして職員向けのWRAPを始めました。

ご存じのようにWRAPとは「元気回復行動プラン」と訳され、日々いかに自分にとって良い生活を送るか、どうすれば毎日を元気に過ごすことができるのか、ということを主眼にメアリーエレン・コープランドさんが、全米各地の120名以上の方に呼びかけ調査をした結果、その回答から、元気でゆたかな暮らしぶりを感じさせる人々に共通している「元気に大切な５つのこと」を見つけ出し、それらをWRAPとして広めていったことから始まっています。いわば元気に生きていくための虎の巻ではないかと私は理解しています。

私自身一昨年、初めてWRAPの講義を受け、その後ファシリテーター研修を経て、しばらく直接WRAPに関わる機会から遠ざかっていましたが、今回このような機会をいただき、WRAPクラスを始めるに至りました。

毎回７～８名の職員が参加し自分の思いをこのクラスの中で吐露しています。我々２名の新米ファシリテーターも皆の思いを聞くことで改めてWRAPの奥深さを感じています。クラス自体も生き物のように毎回違う顔を見せてくれます。

まだまだ、WRAPの神髄を感じ取るまでには至りませんが、全７回の最後の回までには、自分自身も含めて参加された職員が、何かひとつでもこのクラスで元気になるための大切な素を見つけることができれば良いと思っています。

（山本）

WRAPクラスの風景

令和５年度クリスマスパーティーのご案内

今年、新型コロナの影響でしばらく実施できていなかった「恋人をつくろう！クリスマスパーティー」を約4年ぶりに開催します。日程は12月3日（日）、会場は武蔵野スイングホールのレインボーサロンです。このイベントは、「病気や障害があっても主体的に自分の人生を生きてほしい」という巣立ち会の考えから生まれました。理事長自身、「自分は結婚できない」と思っている当事者に出会い、中には結婚に対して自ら否定してしまっている人もいて、それはとても辛いことであり、おかしいと感じた経験があるそうです。私自身もメンバーと関わる中で、恋人を作りたい、結婚したいという気持ちを持っていても「なかなか機会がないから」「もう諦めている」という声をよく耳にします。そのような人達にとって、このクリスマスパーティーが恋人をつくるきっかけになればいいなと思います。また、友達をつくりたいという方も大歓迎です！病気や障害の有無に関係なく、その人の自由で人と関わること、恋をすることを楽しんでほしいと願っています。今回、実行委員になった私自身このイベントに参加するのは初めてで緊張していますが、みなさんに楽しんでいただけるよう、そして自分も楽しみながら一生懸命準備していきたいと思います。都内在住の方に限らず、他県からの参加も歓迎していますので、ぜひ気軽にご参加ください。宜しくお願い致します。

（吉澤）

2002年4月23日第三種郵便認可（毎月3回5の日発行）
2023年7月10日発行　SSKW増刊通巻　5994号

巣立ち会 賛助会からのお知らせ

巣立ち会　賛助会　令和4年度収支報告

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
会費収入	1,090,920	事務費・支払手数料	116,030
受取利息収入	24		
前期繰越金	6,308,237	次期繰越金	7,283,151
合計	7,399,181	合計	7,399,181

【令和4年度・令和5年度分として　順不同】

小林靖宜様、原島則夫様、佐藤弘章様、松石俊郎様、滝澤宏子様、長谷川病院デイケア科様、加藤力弥様、会田孝太郎様、吉野壽夫様、櫻井錠治様、伊東暁子様、村瀬信子様、田村博様、檀上亮爾様、塚本優子様、山崎秀子様、松原のり子様、國富直子様、尾向陽子様、村田眞様、村田眞男様、株式会社ウィズユー 與那覇五重様、青木鉄次様、境野伸二様、菅野俊美様、医療法人社団欣助会 吉祥寺病院様、柏木彰様、寺田悦子様、山田昭徳様、山田千代様、岡﨑秀昭様、吉田輝久様、井上廣子様、加藤佐敏様、熊井秀哲様、日本太郎様、和田成子様、飯野和典様、大坪節子様、瀬戸口和久様、栗原美穂子様、渡邊衡一郎様、太田秀夫様、小野正枝様、三宅敬造様、吉野京子様、河田博様、大島巌様、熊谷スミエ様、豊田康郎様、中村克美様、武藤ヒロ子様、波夛野洋子様、森住典子様、藁谷みち子様、白内美和子様、阿部康代様
医療法人社団光生会　平川病院様、谷部淑子様、鈴木裕美子様、高坂正男様、渡部悦子様、櫻森輝文様、高田美智子様、佐々木いづみ様、特定非営利活動法人零の会　桐原尚之様、小野諭史様

〈令和5年1月17日から令和5年6月19日到着分〉

愛のふれあいコンサートにご来場いただきました皆様より169,924円のご寄付を賜りました。
ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

たくさんの方々から、会費や寄付をいただいております。ご支援ありがとうございます。

巣立ち会の活動にご協力をお願いします。

賛　助　会　費

●年会費　　一口　　3,000円
●郵便振替　　口座番号　00140-4-542860
●加入者名　　巣立ち会 賛助会

巣立ち会 賛助会　会長　松岡恒夫

編集後記

滝山病院での事件はこの仕事をしている以上、考えないわけにはいかない問題だと思います。この国の未来はいったいどこへ向かっているのでしょうか。新たな価値観を皆で想像していくこと、それが大切な気がします。
マッチ擦る/つかのま海に/霧ふかし/身捨つるほどの/祖国はありや「寺山修司・われに5月を」より
音楽会、講演会への参加、ご協力ありがとうございました。（山本）

発行所　〒157-0072　東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷102
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価　50 円
編集　社会福祉法人巣立ち会
〒181-0014　東京都三鷹市野崎2-6-42
電話　0422-34-2761
E-mail: sudachi-kaze@sudachikai.or.jp
http://sudachikai.eco.to/